

イスラエルの人々②

□イスラエルの人々の信仰の手本（失敗から学ぶ手本）

七日目になって、民の中のある者たちは集めに出て行った。しかし、何も見つからなかった。主はモーセに言われた。「あなたがたは、いつまでわたしの命令とおしえを拒み、守らないのか。心せよ。主があなたがたに安息を与えたのだ。そのため、六日目には二日分のパンをあなたがたに与えている。七日目には、それぞれ自分のところにとどまれ。だれも自分のところから出てはならない。」それで民は七日目に休んだ。（出 16：27～30）

□これまでの振り返り

1. アブラハム契約・・・神は、全人類の中から一人の人、アブラハムを召し出し、彼に3つの約束を与えた。**土地の約束、子孫の約束、祝福の約束**である。神はその約束を確かなものとして、アブラハムと契約を結ばれた。3つの約束のうち、土地と子孫の約束はイスラエル民族だけに対するものであるが、これらを通してアブラハムは復活信仰に導かれた。
2. 3つ目の祝福の約束は、イスラエル民族だけでなく、全人類に関係する。「地のすべての部族は、あなたによって祝福される」。その祝福とは、アブラハムが信じた**復活**である。アブラハムの信仰にならい、神には死者を生かす力があると信じるなら、全人類、だれであっても神から復活の祝福を受け取ることができる。
3. アブラハム契約が必ず成ると信じる信仰は、**復活を信じる信仰**でもある。この信仰が、アブラハムからイサク、そしてヤコブ（神からイスラエルという名をいただいた）、さらにヤコブの子らへと継承された。
4. ヤコブの子ら、すなわちイスラエルの人々は、エジプトで増えて一つの民族としての規模にまでなったが、エジプト王に仕える奴隷の民となってしまった。神はアブラハム契約の土地の約束に基づき、モーセを遣わして人々をエジプトから救出した。
5. 前回の振り返り・・・イスラエルの人々の信仰の歩みが始まった

イスラエルの人々がエジプトを出るとき、主が寝ずの番をされた。そして、主は、夜は火の柱、昼は雲の柱の中におられて、イスラエルの人々の前を進んだ。

一方、エジプト王ファラオと彼の家臣たちはイスラエルを解放したことを後悔し、戦車隊を召集して追跡した。紅海に面した海辺に宿営していたイスラエルの人々は、突如エジプト軍が迫り来るのを見て動転した。

日が暮れかけていたこのとき、主はイスラエルの後ろにまわり、エジプト軍を真っ暗な雲の中にとどめた。そして主が海の水を分けて道を開いたので、イスラエルの人々は、信仰によって、右と左に水の壁を見ながら、紅海を渡った。

イスラエルの人々が渡り終えた午前3時頃、エジプト人も同じように渡ろうと海の中の道に入ってきたが、戦車の車輪が次々と外れて立ち往生し、恐怖に襲われているところに、水の壁が崩れ落ちてきて、水に呑み込まれてしまった。

□イスラエルの人々の信仰② 律法授与前の準備（出15：22～16：36）

1. 紅海を渡った後、いったん北上して、シュルの荒野へ。三日間、荒野を歩いたが、水が見つからなかった。やっと水を見つけたが、その水は苦くて飲めなかった。それで、その場所を「マラ（苦い）」と呼んだ。民はモーセに「われわれは何を飲んだらよいのか」と不平を言った。モーセが主に叫ぶと、主は彼に一本の木を示した。彼がそれを水の中に投げ込むと、水は甘くなった。（出15：22～25a）
2. 主は、そこでモーセに【掟と定め】を授け、そこで彼を試み、そして言われた。「もし、あなたの神、主の御声にあなたが確かに聞き従い、主の目にかなうことを行い、また、その命令に耳を傾け、その掟をことごとく守るなら、わたしがエジプトで下したような病気は何一つあなたの上にくださない。わたしは主、あなたを癒やす者である。」（出15：25b～26）
 - 神は、イスラエルの民に律法を授ける前に、まず指導者であるモーセに「掟と定め」を授けた。ただし、ここでモーセに授けられた「掟と定め」がどのようなものだったかは記録されていない。
 - モーセはこれから40年間、荒野を旅する中で病気にならなかった。120歳で死ぬときですら、「彼の目はかすまず、気力も衰えていなかった。」（申命記34：7）
3. マラからシナイ半島西岸を南下して、エリムへ。そこには、十二の水の泉と七十本のなつめ椰子の木があった。そこで、民はその水のほとりで宿営した（出15：27）
4. エリムを出発して、シナイ半島中央部に位置するシンの荒野へ入った。エジプトを出てから、ちょうど1か月。手持ちの食糧が尽きた。（出16：1～12）
 - (1) 民の不平・・・3節 そのとき、イスラエルの全会衆は、この荒野でモーセとアロンに向かって不平を言った。イスラエルの子らは彼らに言った。「エジプトの地で、肉鍋のそばに座り、パンを満ち足りるまで食べていたときに、われわれは主の手にかかって死んでいたらよかったのだ。事実、あなたがたは、われわれをこの荒野に導き出し、この集団全体を飢え死にさせようとしている。」
 - (2) 主のことば・・・4～5節 主はモーセに言われた。「見よ、わたしはあなたがたのために天からパンを降らせる。民は外に出て行って、毎日、その日の分を集めなければならない。これは、彼らがわたしのおしえに従って歩むかどうかを試みるためである。六日目に彼らが持ち返って調えるものは、日ごとに集める分の二倍である。」

- (3) モーセとアロンから民へ・・・6～7節　そこでモーセとアロンは、すべてのイスラエルの子らに言った。「あなたがたは、夕方には、エジプトの地からあなたがたを導き出したのが主であったことを知り、朝には主の栄光を見る。主に対するあなたがたの不平を主が聞かれたからだ。私たちが何だというので、私たちに不平を言うのか。」
- (4) モーセが再度、より具体的に、民へ・・・8節　モーセはまた言った。「主は夕方にはあなたがたに食べる肉を与え、朝には満ち足りるほどパンを与えてくださる。それはあなたがたが主に対してこぼした不平を、主が聞かれたからだ。いったい私たちが何だというのか。あなたがたの不平は、この私たちに対してではなく、主に対してなのだ。」
- (5) 主の栄光が雲の中に現れ、主のことばが告げられた・・・
9節　モーセはアロンに言った。「イスラエルの全会衆に言いなさい。『主の前に近づきなさい。主があなたがたの不平を聞かれたから』と。」
10節　アロンがイスラエルの全会衆に告げたとき、彼らが荒野の方を振り向くと、見よ、主の栄光が雲の中に現れた。
11～12節　主はモーセに告げられた。「わたしはイスラエルの子らの不平を聞いた。彼らに告げよ。『あなたがたは夕暮れには肉を食べ、朝にはパンで満ち足りる。こうしてあなたがたは、わたしがあなたがたの神、主であることを知る。』」

5. その日の夕方、うずらが飛んで来て宿営をおおった。(出 16：13a)
6. 朝になると、宿営の周り一面に露が降りた。その一面の露が消えると、地面の上には薄く細かいもの、地に降りた霜のような細かいものがあった。(出 16：13b～21)
- (1) モーセは民に「これは主があなたがたに食物としてくださったパンだ」と言って、さらに主の命令として、地面から集めるときの指示を告げた。
- ① 一人がその日に食べる分は、1オメルずつ(約2.3リットル)
② 集める者は、自分の天幕にいる人数に応じて、集めよ
- (2) 民は計量器をもって集めたわけではないので、ある者はたくさん、ある者は少しだけ集めてきた。しかし、何オメルあるかそれを量ってみると、たくさん集めた人にも余ることはなく、少しだけ集めた人にも足りないことはなかった。結果的には、自分たちが食べる分に応じて集めたのであった。
- (3) モーセは民に、それを次の日の朝まで残しておいてはならない、と命じた。しかし、彼らはモーセの言うことを聞かず、ある者は朝までその一部を残しておいた。すると、それに虫がわき、臭くなった。モーセは彼らに向かって怒った。
- (4) 民はその日以降、朝ごとに各自が食べる分量を集めた。地面に残ったものは、日が高くなると溶けてなくなった。

7. 六日目に、民が集めたパンは、それまでの二倍、一人当たり2オメルであった。会衆の中のリーダーたちがモーセのところに来てそのことを告げた。(出16:22~26)
- (1) モーセは次のように言った・・・23節 「主が語られたことはこうだ。『明日は全き休みの日、主の聖なる安息である。焼きたいものは焼き、煮たいものは煮よ。残ったものはすべて取っておき、朝まで保存せよ。』」
 - (2) 民は、モーセの命じたとおりに、それを朝まで取っておいた。それは臭くもならず、そこにうじ虫もわかなかった。
 - (3) モーセは言った。「今日は、それを食べなさい。今日は主の安息だから。今日は、それを野で見つけることはできない。六日の間、それを集めなさい。しかし七日目の安息には、それはそこにはない。」
8. しかし、七日目のその朝、民の中のある者たちは集めに出て行った。しかし、何も見つからなかった。主はモーセに言われた。「あなたがたは、いつまでわたしの命令とおしえを拒み、守らないのか。心せよ。主があなたがたに安息を与えたのだ。そのため、六日目には二日分のパンをあなたがたに与えている。七日目には、それぞれ自分のところにとどまれ。だれも自分のところから出てはならない。」(出16:27~29)
- 違反者に対する処罰はない。律法はまだ与えられていないからである。
 - 違反者に対する処罰の事例「安息日に薪を集めた男」は、民数記15:32~36。これは律法が与えられ、イスラエルの民が「それを守ります」と応答した後の出来事である。
9. 結果(出16:30~36)
- (1) それで、民は七日目に休んだ。
 - (2) イスラエルの家は、それをマナと名づけた。それはコエンドロの種のように、白く、その味は蜜を入れた薄焼きパンのようであった。
 - (3) モーセはアロンに命じて、一つの壺にマナを1オメル分保存させた。後日、「契約の箱」の中に、十戒を刻んだ石の板2枚と共に、納められた。
 - (4) イスラエルの子らは、人が住んでいる土地に来るまで、40年の間、マナを食べた。彼らはカナンの地の境に来るまでマナを食べた。
- エジプトを出てから41年目の第1月の15日から、カナンの地の産物を食べた。マナが降ることは止んだ(ヨシュア5:11~12)

□マナを降らせ、七日目を休ませることで、神はイスラエルの人々にどういうことを教えたのでしょうか。(参考箇所 4(2): 出16章4節、4(5):12節、7(1):23節、8:28節と29節)